

あるく みる かんじる
中学・高校生のための震災学習

「震災体験現地交流プログラム」

－ 事業案内パンフレット －



近年子どもをめぐる目を覆いたくなる事件は何を意味しているのでしょうか。子どもたちに命の意味、生きる意味を、我々(親も学校も)は充分語って来なかったのではないかと呆然とします。文部科学省では、総合的学習の内外で、体験学習を重視していますが、忙しい先生には大変です。こうしたなか、修学旅行の意義の精査が求められています。家族でカナダにスキーにしている子がいる一方で、修学旅行の出費に悩むご父兄もおられます。何のための修学旅行か、それが今、厳しく問われています。

神戸は1995年の阪神大震災で、20世紀最大で最後の都市直下地震を受けました。本当に映画のシーンを見ているような地獄でした。震災後も、重工業が衰退し、生活は厳しいのです。しかし、その地獄を経験した人々は、お互いが助け合う、ふれあう、地域づくり・防災福祉活動をすすめています。伝統ある職や食を護っています。

考えてみれば、神戸の歴史は、六甲山から土石流災害や、神戸大空襲など、災害の歴史です。

このプログラムは、見えない都市災害の記憶を、交流・体験プログラムのなかで、現地で体感してもらうものです。人と防災未来センター1期の体験や、野島断層記念館に加えて、このプログラムを加え、「生きることの意味」、「助け合うことの意味」、「命を支え合う」意味を、感じてもらいたいです。そのため、15人程度の少人数グループでのプログラムを30程度、組んでいます。

神戸には、明るい関西弁で「命」「人」と「我が町」を語る「仏」の市民が、たくさんおります。それをプログラムにとりまとめました。子ども達が長じても「神戸」と聞いただけで目頭が熱くなるような、そんな修学旅行を提供したいと考えます。ぜひ、お越しください。

国立大阪外国語大学都市研究室教授・神戸まちづくり研究所理事

森栗 茂一



まち歩きの様子



震災体験談



紙芝居による語り

神戸で震災に負けない暮らしを学ぶ

あそび・みる・かんづめる

神戸は、後ろに六甲山をひかえた美しい港町です。しかし、山が近いということは、土石流水害の危険が常にあり、空襲を受けて逃げ惑い、公害で空気や川が汚されました。そして、1995年の阪神大震災で、20世紀、世界で最初で最後の都市直下型大震災を受けたのです。神戸市の歴史は、水害、戦災、公害、震災、災害の歴史でもあります。みなさんも、いつ、災害にあうか、わかりません。他の地域にボランティアに行くかもしれません。しかし、ボランティアをするには、技術や知恵が必要です。今回は、炊き出しの技術を、阪神大震災を経験した神戸の市民に学びます。炊き出しを一緒にしながら、阪神大震災のときのお話を伺ってください。また午後のプログラムでは、町歩きや川歩きなどをして、現場で市民の方から、水害の様子、震災のときの被害を、当時の写真を見せていただきながら、お話を伺います。

悲しい被害を、強く乗り越え、明るい関西弁で皆さんに語りかけてくれます。町の災害の記憶を「探検」し、市民の強さを「発見」しましょう。神戸を経験したみなさんは、みなさんの町を「ほっとけん」ようになります。

「探検」「発見」「ほっとけん」。神戸の現地体験交流修学旅行は、この3ケン連動をみなさんに期待しているのです。



震災直後の様子（以下同様）



まち研では、まず、修学旅行で何をしたいのか等、学校の学習目的をヒヤリングさせていただき、その目的に沿ったプログラムを地元の方と相談して決めていきます。（詳しくは次ページの「受け入れまでの流れ」をご参照下さい。）

以下の例は、1日プログラムの紹介です。今年は、生徒と地元の方のどんな出会いが待っているのでしょうか。

【修学旅行目的】

地元の方との炊き出し体験、防災福祉コミュニティ体験、職業体験を通して、ふれあい、支えあい、ボランティアのまちづくりを実感したい。

【スケジュール】

午前中→炊き出し体験 午後→各地で個別プログラム



(例)

炊き出しの屋根作りの様子



炊き出し体験

9:50	10:00	11:30	13:00	15:00
オリエンテーション 現地世話人紹介	炊き出し体験 震災を越えたコミュニティの皆さんと一緒に作る	協同の食事と後片付け。 (半日プログラムの場合は生徒の皆さんに質問を書いてもらい、それを模造紙に貼り、質問大会などをします。)	個別プログラム 学校の要望にお答えできるよう、まち研が地元と日程やプログラムをコーディネートします。	解散

受け入れまでの流れ

修学旅行お申し込みとその後

① 申し込み用紙をご記入の上、郵送又はFAXにて受付

修学旅行を行う前年度1月末までに当研究所へ申し込み用紙（まち研HPにてダウンロードできます）に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。

修学旅行申し込み用紙	
学校名	
学校ID	
郵便番号	
所在地	〒
電話番号	
Fax	
E-mail	
旅行会社名	
担当番号	
所在地	〒
電話番号	
Fax	
E-mail	
【修学旅行申込書についてのご案内】	
※ 本研究所よりお申し込みください。また、その旨をお知らせください。	
※ 本研究所よりお申し込みください。	
※ 本研究所よりお申し込みください。	
【印刷のスケジュール】印刷可能	
【受け入れ希望日】	年 月 日
【受け入れ希望時間】	9:45 ~ 15:30 (その他)
【学年・人数】	学年 人(学級)
【連絡先情報】	電話番号 / FAX
【備考欄】	

申し込み用紙

② 事務局よりお電話で学校の希望をヒヤリング

申し込みを受け付けましたら、事務局よりお電話で学校のご希望をお聞きします。またその際、下見の受け入れと、事前学習のための事前講演会も受け付けておりますので、ご希望の方は申し込み時にご相談下さい。

③ 事務局で学校と地元団体をマッチング

神戸まちづくり研究所が学校のご希望に合ったプログラムを作成し、受け入れ団体と日程、プログラム調整をいたします。受け入れ団体、プログラムが決定いたしましたら、神戸まちづくり研究所より旅行会社へプログラム紹介のご案内をさせていただきます。なお、まち研では各学校に合わせて毎回プログラムを作り直しています。

④ 自己紹介カードご提出のお願い

まち研の修学旅行では地元の方との交流を大切にしております。実施2週間前までに、生徒全員の自己紹介カード（まち研HPにてダウンロードできます）を当研究所までご提出いただけますよう、お願い申し上げます。また、HPにある自己紹介カードは例としてですので、学校の方でオリジナルを作成していただいても構いません。

神戸の神戸大震災被災地交流のための 自己紹介カード	
名前	
クラブ・特技	
今、一番心が あること	
<神戸の町をどう見たいと思いますか？>	
<神戸の震災について何か知っていますか？>	
<修学旅行で、神戸大震災被災地の人々と会い、何を質問したいですか？何を聞きたいですか？>	

例として自己紹介カード

2005・2006年 受け入れ地区紹介

■神戸市中央区 葺合地区■

神戸市中央区は、北野異人館や新神戸駅から少し歩くと神戸ウォーター（腐らない水として、昔は船に積んだ）の出る布引の滝があります。浜手には、埋立地の製鉄工場跡地に、被災者用の公営住宅と、人と防災未来センター、美術館などができました。震災でダメージを受けた旧市街地は、近代都市神戸の発展にともない、明治22年の市区町村制施行以後、神戸市の都市計画が及ばない周縁となり、大正時代には新生田川河口部にマッチ工業・金属回収などで生計する狭小住宅が密集していました。・・・1995年の阪神大震災は当地区にも膨大な被害をもたらし、未だ倒壊して更地のままの敷地が多数残ります・・・

<吾妻地区>

えんぴつの家 自立センターあづま	障がい者作業所「えんぴつの家」で食パン作り。配達に行くこともあり。(5) 「自立支援センターあづま」にて障がい者と音楽などの活動体験(10)	15名
中央むつみ会	小規模通所授産施設「ほっとすてーしょん」でのクッキー、竹炭づくり(5)	5名
賀川記念館	学童保育の現場見学と子どもたちとの交流。学童保育の子どもたちと一緒に おやつを食べながら遊びます。	10名
吾妻ふれまち協議会	避難所体験談や被災現場へ実際に出向いての検証をし、当時の様子を聞く。 震災時に住民が撮影したフィルム上映・解説。	5名
人・つなぐ旧西国街 道を考える会	下町の市場や路地・地藏・空地・井戸など昔から残る場所や、震災後に変わ った所、変わらなかった所など、説明を聞きながら歩いて見て廻る。 (防災器具と設置公園や駐車場になってしまった神社などを見学)	15名
真愛ホーム	復興住宅の被災した高齢者とお茶を飲みながらの会話等の交流 車椅子用送迎者の乗り降り体験(車は動きません。)	15名
ケアポート神戸	高齢者とお茶を飲みながらの会話・交流 車椅子用送迎者体験。車椅子乗り降り体験	15名
吾妻婦人会	「震災体験談」震度7はどれくらいのゆれだったのか、その後の生活はどう だったか。地元の方からお話を聞く。	10名

<雲中・若菜地区>

NPO輝 わかな	「震災体験談とまちあるき」	震災当時のお話を聞きながら、町を歩く。避 難所になった学校や住民の生活を支えた市場 を訪問する	20名
NPO輝 うんちゅう	「神戸の水、誇りと甘え」	布引の滝へハイキングをしながら水の大切さ や震災時の様子を伺う	15名
	「神戸下町銭湯体験」	震災時の様子や水の大切さをお聞きする。実 際にお風呂に入ってみよう。	15名
	「水害・戦災・震災体験談」	写真展を観覧して災害を体験した方からお話 を聞く	15名
	「地域コミュニティの重要性」	震災時の地域住民の助け合いのお話と、現在 の活動をお伺いする	15名
	「震災当時の生活体験」	震災当時の不便な生活をどのように乗り越 えてきたか、実際に体験する	15名

<小野柄地区>

NPO輝おのえ	デイサービスの方々や高齢者の方々の震災体験談を聞きます。	10名
	震災写真展と交流プログラム	15名
	まち歩き&モニュメント	15名

<市場>

大安亭市場	昔、浜手側に大きな鉄鋼の工場があり多くの労働者や、庶民の生活を支えてくれた市場です。そして大安亭市場も震災の影響を受けました。震災当時の体験談や、その後の復興の様子を聞き、市場散策や、商店主インタビューなどを体験します。	30名
-------	--	-----

<商店会>

大日6丁目商店会	こだわりとやさしさがぎゅっと詰まった商店街です。大震災では、商店会も大きな被害を受けました。震災時の商店街の様子、その後どのように復興してきたのかの話、モニュメント見学、商店主インタビューなどを体験します。	30名
----------	---	-----

<神戸ものづくり大学>

伝統の誇りと継承 若者とのふれあい

神戸洋服、神戸靴、神戸家具…。慶應3年（1868）の開港以来、独自の産業として発展してきた洋風文化は、平成7年（1995）の阪神・淡路大震災で大きな被害を受けました。神戸マイスターによる伝統技術の継承の現場を見学し、震災当時の産業の様子や、そこで学ぶ若者たちの交流を図ります。

神戸靴	「履きだおれ」と形容される神戸では、明治期から本格的な紳士靴づくりがスタート。戦後、婦人服へと発展し、ハンドメイドの高級革靴として知られています。当日は学生との交流をベースに、靴の加工工程の見学、震災時の地場産業の様子などを見学します。	10名
神戸家具	欧風家具をベースに、日本風にアレンジ。港の船大工の技術が生きた神戸家具は「手作りの高級家具」として人気を集めています。当日は、作品の説明や、地震に対する家具転倒防止の話、組み立て体験ができます。	8名
神戸洋服	ハイカラ文化の代表として発展した神戸の紳士服。卓越したデザインと繊細なオーダーメイド仕立てが特徴です。当日は、作品の見学、簡単な作業の体験、震災当時の地場産業の様子などお聞きすることができます。	14名

<北野工房のまち>

震災を超えてきたその歴史と、神戸の伝統技術の誇りに触れます。

「北野工房のまち」は和・洋・中華菓子、押花、ちぎり絵などの神戸マイスターによるものづくりに触れられる場所として、震災後、旧北野小学校を改装してつくられました。当日は震災を越えてきた歴史を聞き、神戸の伝統技術に触れるものづくり体験をします。

■神戸市灘区■

神戸市灘区は、その神戸の東部にあります。「灘の生一本（きいっぼん）」とよばれた、江戸時代からの酒造地です。六甲山地の花崗岩の土砂がたまった扇状地にあり、お酒造りに良い「宮水」が沸くのです。六甲山を背景に、石屋川[昔、御影石（みかげいし）を出荷した]や都賀川が流れる美しい街ですが、昭和13年（1938）の阪神大水害、昭和20年（1945）の神戸大空襲の戦災、さらに平成7年（1995）の阪神淡路大震災（以後阪神大震災とよぶ）により、何度も大変な災害にあっています。しかし、そのたびごとに、人々は、自らの町を自分たちで再建してきました・・・

<河原地区>

河原地区災害の記憶まち歩き	水害、戦災、震災で何度も多くの被害、犠牲者を出した市民が、地域を案内する。現場で、市民が当時の写真を示し、当時の記憶を語る	30名
地域防災訓練	助けたかったけれど助けだせなかった……。二度とそう悔やまないようにと、地域で行われている、救命救急士の体験、放水訓練を体験する。	20名

のびやかスペース あーち	子育て支援、障がい者共生支援をキーワードに、当事者・専門家・市民活動団体が連携して支援しあう関係づくりを目指している施設です。そこでは乳幼児と関わったり、障がい者と一緒にフェルトの工芸品をつくりたりしながら、震災の話を聞きます。	20名
-----------------	--	-----

<原田地区>

原田地区震災の記憶まち歩き	地域住民の案内で原田地区のまちを歩き、灘駅前で炊き出しをしていた話や、お寺が避難所になった話、自衛隊の支援状況などをお聞きします。	30名
震災当時の生活体験	震災当時の不便な生活をどのように乗り越えてきたか、お母さんたちにお話を聞き、実際に体験する。	15名

<なぎさ地区>

プログラム名	プログラム内容	定員
震災当時の話 まち歩き	震災後、新しいまちに移り住んできた住民の皆さんのお話、例えば震度7はどれくらいのゆれだったのか、地域で活躍したボランティアは若者だった話、仮設住宅の話、その後、新しいまちに移り住んでからの話など、それぞれの方の震災体験談をお聞きします。またその後、地域住民の案内でまちを歩きます。	30名

震災体験現地交流プログラムのあとは・・・

【おいしい食事をいただきながら神戸の歴史を海から堪能しませんか？】

『ミュージック・グルメ船コンチェルト』のご案内

ミュージック・グルメ船コンチェルトは以前の名前を「シルフィード」といい、神戸港と大阪南港との間を行き来する船でした。あの阪神大震災のときに寸断された陸路にかわって、大阪まで海路にて多くの市民や救援物資を運んだ実績があります。1997年に「コンチェルト」という名前で神戸の港によみがえり、現在は神戸の良さを海から五感で堪能できるクルージングを行っています。詳しくはHPをご覧ください。[コンチェルト ホームページ http://www.kobeconcerto.com/index.asp](http://www.kobeconcerto.com/index.asp)

標準運行ダイヤ：ランチ 12:00～13:45 ティー 15:00～16:30 ディナー 17:10～18:55/19:20～21:05

修学旅行プラン：ランチ 3,700円 ディナー 4,200円 (乗船料・中華バイキング代、税込)

★震災時の活躍をお聞きできるプログラムをご用意いたします。ご利用の際は神戸まちづくり研究所にお問い合わせ下さい。

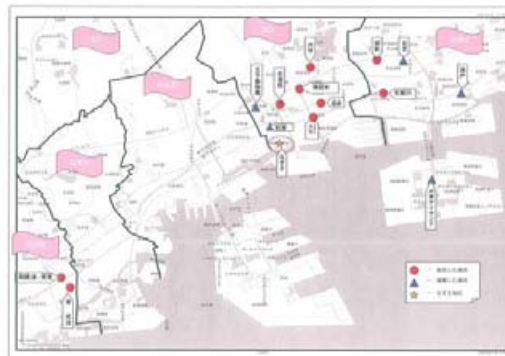
各学校ごとのプログラムが出来上がった段階で、学校ごとに教材を作っています。
まち歩きや、地域の紹介等のときに使います。

資料・教材



ようこそ！むぎさ地区へ むぎさを「こ」こ 紹介します。

開成 地域の紹介とは
むぎさ地区は、開成の一番西に位置します。もともとこの地、天竺山麓の静かな環境の中にあり、開成の中心部から離れた静かな環境が、多くの人々を引きつけてきました。また、この地には、開成の中心部から離れた静かな環境が、多くの人々を引きつけてきました。また、この地には、開成の中心部から離れた静かな環境が、多くの人々を引きつけてきました。



事後学習 お手紙のご紹介

事後学習は学校によって様々ですが、地元の方は生徒や先生方からのお礼の手紙を楽しみにしています。ここでは修学旅行を体験された中学校の生徒、先生からの手紙を紹介します。

前略、時下益々ご清栄のことと存じます。さて、過日の修学旅行におきましては、悪天候にもかかわらず格段の受け入れをいただき、生徒、職員共に感激し神戸の地を後にしました。一期一会と申しますが、復興著しい神戸で初めて出会った方々との貴重なひととき。「真冬の寒い中、避難所での炊き出しは、もっと温かいものを感じたでしょう。」先日の訪問直後のある男子生徒の感想です。実際にそうだったかどうかは同じ体験をしていない名古屋の人間には知る由もありません。当中学校では、修学旅行に向けて、毎年1月17日（必ずこの日です）から、2年生が震災学習を始めています。図書館や学級文庫にも震災関係の文献が充実してきました。2月の授業参観では被災者の方々の手記を資料に、保護者も生徒も涙の止まらない授業をする先生が何人かいます。ただ、私が生徒たち全員に言っていることは、「神戸の人たちの気持ちが理解できた」などという感想はあり得ないということです。「気持ちの一端に気づいた」とか、「ほんの少し共感できた」という程度のことであって、被災体験のない名古屋の中学生が9年前の人々の気持ちが学校の学習で「理解できた」なんていうことはおこがましいと思っています。今後も多くの名古屋の中学校が修学旅行で神戸の地を訪れるかと思えます。当中学校は、震災の規模や被災状況をほんの少しだけでも学校で学び、旅行で出会う神戸の方々は全員「何かを失った人たちだ」というほんの少し（だけど大切）の認識を持ち、神戸に入る。この部分の面倒だけど地味な学習があつてこそ、他校とは違う現地での取り組みになるのではないかと若干自負しています。

今回の訪問で、彼らなりの感覚で見たり、聞いたり、感じたりした神戸の「まち」や「ひと」とのふれあいで経験地は、少なくともディズニーランドや東京で買い物に明け暮れる修学旅行を経験した中学生のそれとは大きく異なると確信しています。

森栗先生曰く、始まったものは形を変え、いつかは途絶え永遠ではないとのこと。4年続いた神戸と名古屋の絆。まだまだ終わらせてはなりません、どこまでできるかは自信がありません。

本当にありがとうございました。生徒たちは生涯、神戸の地を訪れたり、通るたびに今回の経験を思い起こすことでしょう。協力して下さった皆様の優しい笑顔とともに……。

末筆ながら時節柄御身をご自愛くださいますようお願い申し上げます、お礼に代えさせていただきます。

草々

……皆様の目を見てどれだけ当時が大変だったか思い知らされました。なかでも、水が出ないのでトイレが使えない。だから食事を我慢したりしたとおっしゃっていましたが、なかなか情景を思い浮かべるだけでも難しいです。バケツリレーの体験では掛けようとする場所に水が届かなかったり、すくえなかったり大変でした。しかし、一人の力は小さくても皆で力を合わせれば大きくなるのが分かりました。……生徒の手紙より

……今回の震災学習で震災の怖さ、恐ろしさを感じました。それと同時に命の尊さや大切にさについて真剣に考えることができました。家族を失う怖さ、友人を失うつらさ。そんな残酷な現実を受け止めて生きぬくことがどんなに大変なことだか実感しました。私はどんな状況でも命を大切にしていこうと思います。楽しくて命について深く考えることのできた修学旅行を私は一生忘れませんありがとうございました。生徒の手紙より

料金システム

1日体験プログラムで以下の料金がかかります。(半日体験の料金はお問い合わせ下さい。)

プログラム費用	
プログラム費 (炊き出し体験費含む)	3, 240円 / 1人 / 1日
炊き出し体験材料費(実費精算いたします。)	700円程度 / 1人 / 1日 × 1.08
会場費	実費精算
希望の方のみオプションプログラムがあります	
<事前講演会> 修学旅行の事前に学校にお伺いし震災のこと、地元のことについて講演することができます。事前学習としてお使い下さい。	講師派遣料 54, 000円 (交通費別途)
<事前下見> 下見に同行しコーディネートいたします。下見の結果、学校側の要望に応じて、プログラムの練り直しもいたします。ただし、毎年来ていただいている学校については、大幅な修正が必要ないので無料でご同行いたします。	コーディネート料： 21, 600円 (プログラム修正費含む)
<受け入れについて> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1クラス以上から受け入れ可能です。 ・ 学校の学習目的をお聞きした上で、プログラムの詳細、受け入れ地区などが決定されます。受け入れ地区のスケジュールなども考慮してプログラム構成されるため、できる限りコーディネートいたしますが、必ずしもご希望する地区に行けるとは限りませんのでご了承下さい。 ・ 受け入れに限りがあるため、申し込みは先着順に受け入れいたします。 	

お問い合わせ
特定非営利活動法人 神戸まちづくり研究所 TEL : 078 - 230 - 8511 FAX : 078 - 230 - 8512 E-Mail : LET07723@nifty.ne.jp までご連絡下さい。
職員研修受け入れ
また、修学旅行受け入れのほか、企業・行政・NPO・学校・議員・商工会議所などの職員研修向け受け入れも行っております。その他事業も含めて詳しくは神戸まちづくり研究所ホームページをご覧ください。 http://www.netkobe.gr.jp/machiken/project/school/school1.html

特定非営利活動法人 **神戸まちづくり研究所**

〒651 - 0076 神戸市中央区吾妻通 4 - 1 - 6

TEL : 078 - 230 - 8511 FAX : 078 - 230 - 8512

E-Mail LET07723@nifty.ne.jp

9:30~17:30 (土・日・祝定休)

